広島大学大学院 教育学研究科
高等教育開発専攻

［博士課程前期］

2012年度

あなたも「大学」を
研究してみませんか！

広島大学

高等教育研究開発センター

RIHE

Research Institute for Higher Education (RIHE)

〒739-8512 広島県東広島市鏡山1-2-2　TEL.082-424-6240
http://rihe.hiroshima-u.ac.jp/　E-mail:higheduc@hiroshima-u.ac.jp

高等教育研究開発センターと大学院教育

広島大学高等教育研究開発センターは1972年、日本で初めて設置された大学・高等教育の専門研究機関です。現在、11名の専任教員が所属し、日本最大かつ国際的な研究拠点として最先端の研究・教育活動を展開しています。センターは1986年に日本で初めて、高等教育研究のための大学院教育を開始しました。2000年に高等教育開発専攻（博士課程前期）と教育人間科学専攻・高等教育学分野（博士課程後期）を設置し、高等教育の専門的能力を持った研究者や職員を数多く輩出してきました。

人材養成目的

センターの使命は、大学・高等教育に関する基礎的研究を通して、日本の大学・高等教育の充実・高度化に資することにあります。当専攻では従来から、高等教育研究者の養成を主要な使命としてきましたが、近年の大学改革の進行にともない、センターではこれまで行ってきた多様な研究の成果を活かし、大学職員の能力開発にも力を入れています。今日、大学職員の役割への期待が大きくなり、また能力開発が必要になってきています。そうした中、高等教育研究者の養成と大学職員の能力開発は対立する目的ではなく、異なる視点や多様な経験を持った人々が同じ空間を共有して議論し合うことによって、大学職員にとっても研究者を目指す学生にとっても、効果的な大学院教育を実現しています。

センターではこれからも、高等教育に関わるさまざまな専門的職業を志す方々を広く受け入れ、高等教育に関する専門的知見の獲得と能力開発を後押しし、多くの方により充実したキャリアを積んでいただきたいと考えています。

開講形態

授業は原則、通常の授業時間帯（平日昼間）に行われますが、現職の職員の方でも無理なく履修できるよう、必要に応じて夜間や週末に開講したり、集中講義形式にするなど、柔軟に対応しています。こうした措置により、ほとんどの現職職員の方々は2年間ですべての単位を修得し、修士論文を書き終えて修了しています。

また、現職の方は、標準修業年限を超えて授業を履修し修了することのできる「長期履修学生制度」を利用することができます。この制度を利用すると、標準修業年限（博士課程前期の場合2年）の授業料で2年を超えて就学することが可能です。

カリキュラムと授業

当専攻のカリキュラムは以下の通りです。高等教育の基礎から発展まで重要なテーマを幅広く学習できるように組み立てられています。高等教育基礎論（必修科目）を通じて高等教育の基本的な知識や分析手法を習得した上で、各自の興味関心に応じて幅広い発展的科目の中から学びたい科目を選択することができます。

授業の履修は各学生の状況に応じて、一定期間に集中して履修する、あるいは2年間均等に履修するなど、学習負担を調整することができます。授業は少人数で行われるため、授業中に自由に発言し、活発な議論を行うことができます。

■高等教育開発専攻のカリキュラム

	《授業科目》	開設単位数	履修単位数《必修》	履修単位数《選択》
必修科目	高等教育基礎論Ⅰ（社会学的研究）	2	8	
	高等教育基礎論Ⅱ（比較･歴史的研究）	2		
	高等教育基礎論Ⅲ（計量と分析）	2		
	高等教育基礎論Ⅳ（制度研究）	2		
選択必修科目	比較高等教育論特講（理念とシステム）	2	12	6
	高等教育国際化論特講（歴史と現状）	2		
	大学教育論特講（内容と方法）	2		
	大学カリキュラム開発論特講	2		
	高等教育目標論特講（大学と社会の接続）	2		
	高等教育政策･財政論特講（大学のインプット･アウトプット）	2		
	高等教育組織論特講（組織と教職員）	2		
	高等教育評価論特講（高等教育評価の論理と実際）	2		
	高等教育職員開発論特講（大学における教育研究支援体制の整備と学生支援）	2		
	高等教育アドミッション論特講（学生募集と入学基準の社会学）	2		
	学術政策論特講（研究面から見た大学と政策）	2		
	高等教育基礎演習Ⅰ（実践研究）	2		
	高等教育基礎演習Ⅱ（研究講読）	2		
	高等教育開発論特別研究	4	4	
	高等教育開発論課題研究	4		
選択科目	教育学研究科開設科目			
	修了必要単位数	30単位		

■担当教員と授業内容

学術政策論
山本 眞一（教授・高等教育研究開発センター長）

政策、学術、職員などを含む高等教育システムに関する研究を行っています。このほか、職員能力開発に係るセミナー講師、中教審専門委員など対外的活動も行っており、皆さんに高等教育のダイナミズムをお伝えしたく思います。

高等教育国際化論
秦 由美子（准教授）

高等教育の国際化について研究しています。高等教育の国際化という概念は時代により変容するものですが、授業では歴史的・比較的観点からイギリス高等教育を中心に各国の高等教育の国際化の動向の把握に努めています。

高等教育目標論
藤村 正司（教授）

社会学の視点からアカデミック・プロフェッション論や大学と社会の関係について研究を進めています。授業では大学の人材育成や大学教育の効果について、実態把握のみならず考え方やアイディアを大切にして指導を行っています。

高等教育職員開発論
大場　淳（准教授）

大学組織の人の側面に焦点を当て、大学のガバナンス、組織文化、リーダーシップ等の課題を取り上げて、大学が高いパフォーマンスを出すための条件を探っています。また、フランスを中心とした欧州の高等教育制度についての比較研究も進めています。

高等教育アドミッション論
大膳　司（教授）

高校と大学の接続に関する研究を行っています。高等教育機関での研究者としてだけでなく、入試業務にも携われるよう、入試に関する理論と実践について学習します。

高等教育評価論
村澤 昌崇（准教授）

研究上の関心は高等教育全般に統計モデルを当てはめることです。その他、大学組織の特性、制度・政策の成立と波及、アニメ・マンガ人材養成に関する統計分析等です。大学って、知れば知るほど面白いですよ！

大学カリキュラム開発論
黄　福涛（教授・高等教育開発専攻長）

高等教育の研究者及び実務者の育成を目的とし、主に歴史的・比較的な視点から、大学カリキュラムの開発に関する主なモデルの特徴と変容を分析したうえ、主要諸国における大学カリキュラムの改革に関する問題点や動向等を論じます。

高等教育政策・財政論
島　一則（准教授）

大学システムの機能・構造・財政、大学の経済・社会的効果の研究を進めています。これらを学生と共有することで、高等教育研究者・実務者の諸能力―論文読解を通じた情報把握・再構築能力、社会調査・統計手法に基づく状況把握力、論文作成を通じた論理的・批判的・創造的思考力―の育成を目指しています。

高等教育組織論
渡邉　聡（教授）

人的資本論と応用計量経済手法をベースとする労働経済学の視点から、高等教育機関における人的資源管理や組織デザイン、組織マネジメントに関する教育研究指導を行っています。

比較高等教育論
福留 東土（准教授）

大学教育の日米比較に関心を持っています。人間の成長のために大学はどんな教育を提供しうるのか？授業では諸外国との比較を通して大学教育のあり方にアプローチしています。世界に眼を広げ、それを基に日本の大学を見つめ直してみませんか。

▶センターの研究活動

センターでは高等教育研究の最大の拠点として、さまざまな研究プロジェクトを展開しています。21世紀COEプログラムの研究拠点に採択され、「21世紀型高等教育システム構築と質的保証」（2002-2007年）を展開しました。現在は文科省の戦略的研究推進経費を取得し、「21世紀知識基盤社会における大学・大学院改革の具体的方策に関する研究」を進めています。この他にも科学研究費補助金や委託事業によるプロジェクトを多数展開しています。

▶研究・学習環境

センターは国内外の幅広い研究者ネットワークを形成しており、さまざまなテーマによる研究会やセミナーを常時開催しています。当専攻に在籍することで、国内外の高等教育の専門家と交流する機会が得られるのも魅力のひとつです。またセンターの情報調査室（図書室）は日本最大規模の高等教育関係文献・資料を所蔵しており、国内外の研究者に広く利用されています。当専攻の院生はこれら豊富な文献・資料を活用して研究と論文執筆を進めることができます。

修了生の進路

当センターの大学院は1986年、日本ではじめて高等教育について学ぶ大学院として発足し、現在までに博士課程前期（修士課程）修了者40名、博士課程後期修了者（単位取得退学を含む）11名を送り出しています。修了生は、研究者として大学の学部や研究センターに就職したり、大学職員として実務的な専門能力を発揮して、全国の大学で広く活躍しています。

■修了者の主な就職先（国内のみ）

【大学教員】（博士後期課程修了者および単位取得退学者）
九州大学教育改革企画支援室、九州大学大学評価情報室、県立広島大学総合教育センター、東京大学大学院教育学研究科、東北大学高等教育開発推進センター、名古屋大学大学院教育発達科学研究科、広島大学高等教育研究開発センター、琉球大学大学教育センター

【大学職員】（在職就学による職員を含む）
大手前大学、佐賀大学、広島女学院大学、広島大学、立命館大学、琉球大学、武蔵野大学

【民間企業他】
黎明書房、読売新聞社、フォー・ユー協同組合

【現職のまま在学している学生の所属機関】
神戸大学、ノートルダム清心女子大学、広島大学、安田女子大学、阿南高等工業専門学校、京都教育大学、長崎大学

修了生・在学生の声

（体験記より抜粋）

大学院の授業は準備が大変で、文献を読むのにもレポートを書くのにも時間がかかり、最初はとても苦労しました。しかし、研究室の様々な年代の先輩や後輩と議論を重ねながら真剣に学習に取り組み、ときには花見やバーベキューなどを楽しみながら、アットホームな雰囲気の中で学生生活を送ることができました。センターの先生方は研究分野や課題に応じて、総合的にバックアップして下さいました。大学院教育を受け、研究活動に従事することにより、教員の大学院教育や研究活動への理解の仕方が変わりました。時間の使い方や、論文作成などの研究活動の成果の出し方などは、知らない者にとっては理解が困難です。私にとって大学院修学で得た知識や経験は、大学職員として今後業務を行う上で、職員と教員と学生といったステークホルダー間の共通理解を深め、協働を図る上で貴重な財産になりました。
（修了生・大学職員として勤務）

「大学について研究する」とはどういうことか？ センターでの学びはこの問いに答えを出すプロセスでした。大学に関する基礎知識の修得はもちろんのこと、研究対象の選び方や分析の仕方、自分のアイディアを具体的成果につなげていく方法、学びたいことや課題が見つかった時どう対応していくか等々…自分の「これから」につながる様々なことを学ぶことが出来ました。アットホームな雰囲気を持ちつつも、学びたい!と思った時にしっかり応えてくれる先生や職員さん、そして仲間がいるのが高等教育研究開発センターです。勤務大学で、研究者として、そして大学人として、研究や業務を遂行するときにセンターで学んだことが前へ進む力になっています。
（修了生・大学教員として勤務）

高等教育開発専攻では「大学」について様々な視点・角度から幅広く学ぶ機会が開かれています。学生の取り組むテーマも様々です。一つの事象も見る角度や方向を変えると様々な見え方をし、様々な議論が成り立つということを学びました。自分の議論したいことを論理的に組み立て、それを他者に説得力を持って伝えられるようになること、修士論文の執筆はその訓練のプロセスだと思います。高等教育についての知識を習得することはもちろんですが、論理的思考力を養い、鍛えることが、大学院で学ぶ大きな意味だと思っています。そうやって培われた能力こそが、今後の職業人生における様々な場面で自分の力になってくれると信じ、日々研究に励んでいます。毎日、大学で目前の仕事への対応に追われていると、視野が狭くなりがちで、幅広い視野で物事を考えられなくなるということはないでしょうか。大学院への進学は、大学という自分の職場を一歩下がって客観的に見つめ、それについて深く考える良い機会です。授業で学ぶ理論が自分の職員としての体験と結びついた時、まるでバラバラだったパズルの形がだんだん見えてくるような喜びもあります。
（在学生・現職大学職員）

当専攻に関心のある方へ

私たちは一人でも多くの仲間と一緒に高等教育の研究に取り組み、活力ある専攻をつくっていきたいと考えています。高等教育の研究に関心のある方、当専攻への入学を検討されている方は、E-Mailでお問合せ下さい。大学院生の生の声を聞くこともできます。きっと有意義なアドバイスが得られるでしょう。教員へ直接連絡したい方はホームページの教員情報をご覧下さい。

当専攻の詳細については、高等教育研究開発センターのホームページをご覧下さい。
入試情報、カリキュラム、授業風景、修了生・院生の声などの情報を掲載しています。

http://rihe.hiroshima-u.ac.jp/

このパンフレットの内容は2011年5月現在のものです